

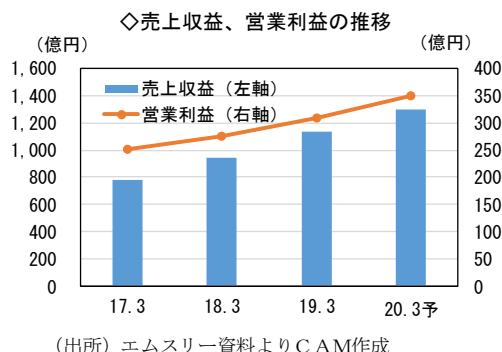
企業ニュース エムスリー

(東証1部：2413) <http://corporate.m3.com/>

作成者：奥村義弘

インターネットを活用した医療関連事業を展開

2000年、インターネットを活用した医療関連事業を行うため、ソネット・エムスリーとして設立。2010年、商号を現社名に変更。事業目的は「インターネットを活用して、健康で楽しく長生きする人を一人でも増やし、不必要な医療コストを1円でも減らすこと」としている。社名のエムスリーは医療 (Medicine)、メディア (Media)、変容 (Metamorphosis) の3つのMを表している。19.3期の売上収益構成比はメディカルプラットフォーム (国内の医療従事者専門サイト「m3.com」を活用した各種マーケティング事業など) 35%、エビデンスソリューション (臨床試験等の業務支援、治験業務全般の管理など) 20%、キャリアソリューション (国内医療従事者を対象とした人材サービス事業など) 12%、海外22%、その他エマージング事業群11%。



新スタッフも戦力化し、良好な受注状況

20.3期・第1四半期 (4-6月) の連結業績は売上収益が308億円、前年同期比14%増、営業利益が89億円、同14%増。メディカルプラットフォームでは前期に採用した新スタッフが戦力化し、製薬マーケティング支援の受注が前年同期比40%増となった。エビデンスソリューションでは大型プロジェクトが終了し一時的な狭間となったが、受注残は高水準を維持した。キャリアソリューションも医師や薬剤師の利用が引き続き好調。海外では中国等のアジア地域が拡大した。エマージング事業群では先端医療分野などで複数の新規ビジネスが拡大している。

20.3期の会社計画は売上収益が1,300億円、前期比15%増、営業利益が350億円、同14%増を据え置いた。主力のメディカルプラットフォームでは先行投資の効果が発現してきた点を評価したい。クラウド電子カルテでは既にNo.1のポジション (累計導入件数1,000件、管理カルテ数1,400万人分を突破) を有するが導入ペースはさらに拡大する見込み。今後もM&Aを含め積極的な先行投資を進める方針で、AI事業、リハビリ専門職向けサイトなど将来に向けた種まきも順調に進んでいる模様。

[株価動向・投資判断]

医療関連のIT企業として高い成長ポテンシャルが評価できよう。

<2413 エムスリー 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は日経予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	94,471 (21)	27,486 (10)	27,472 (10)	18,127 (13)	60.8	11.00
19.3	113,059 (20)	30,800 (12)	30,942 (13)	19,577 (8)	30.2	7.00
20.3 予	130,000 (15)	35,000 (14)	35,000 (13)	22,000 (12)	32.4	8.00

(注) 18年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2019/8/19)	2,255 円
年初来高値 (高値日)	2,297 円 (19/8/9)
同 安値 (安値日)	1,412 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	69.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	218.5 円
P B R	10.32 倍
予想配当利回り	0.35 %
(1株当たり配当金8.00円)	
R O E (19.3)	21.6 %
発行済み株式数	67,846 万株